

# 東日本大震災で転倒した 南無阿弥陀仏供養塔の修復

鶴飼まちづくり広報

会長  
工藤政憲

事務局  
大信田智



ドスンと大きな音をたてて、後に転倒しました。

三月十一日に発生した東日本大震災により転倒した供養塔は、「神社・史跡マップ」で広く地域のみなさんに紹介している史跡の一つです。  
お盆を前にして、推進委員会は、この供養塔を修復する事にしました。



作業の前に御神酒をあげてお祈りします。



このクレーンでは持ち上がりません。



25トクレーンでやっと持ち上げました。



朝10時に始めて午後4時に無事着地。

まちづくり推進委員と拜んでいる地域のみなさんと

## 南無阿弥陀仏供養塔の修復を祝う会



お盆の前日、八月十二日に修復を祝う会が開催されました。参加者は三十人を越えました。会長の挨拶につづき、長内村議・鶺鴒西自治会長・鶺鴒南自治会長・鶺鴒温泉自治会会長の挨拶がありました。

滝沢村さんさ踊り保存会のみなさんがさんさ踊りを奉納し、参加者のみなさんにお茶とお赤飯が配られました。



下鶺鴒の小・中学生のみなさんです。



会長が供養塔の由来を話してくれました。

### 南無阿弥陀仏供養塔の由来

およそ160年前、飢饉がつづき多くの人々が餓死しました。餓死した人々の霊を悼み、飢饉が起きないように願い、供養塔を建てることにしました。

鶺鴒に住む全ての人々が参加しました。貧しい人も富める人もそれぞれ出し合い、協力しました。石は鞍掛山から冬にそりで3年かけて運びました。今日は上鶺鴒から何十人、つぎは下鶺鴒から何十人というようにねばり強く、長い年月をかけて完成にこぎつけました。

お盆にはその子孫の一部の人たちが御参りしています。高橋源一さんが管理しています。